

第73回 令和5年度

河北文化賞



公益財団法人 河北文化事業団



河北文化賞について

公益財団法人河北文化事業団理事長

一 力 雅 彦

河北文化賞は、東北に生きる人々の生活、文化の向上を願い、東北の学術、芸術、体育、産業、社会活動の5部門で顕著な業績を挙げた個人、団体を顕彰しようと、河北新報社が昭和26年に創設しました。今年で第73回となり、これまで受賞された皆様方は東北振興の大きな支えとなっています。

地域が持続的に発展していくためには、産業の振興を図り、住民の生活の安定を進めることが肝要です。文化、教育といった分野の充実も欠かせない要素です。河北新報社はそうした点に着目し、東北の第一線でたゆまぬ活動を続ける個人、団体を顕彰してまいりました。

昭和30年に事業主体を財団法人河北文化事業団（平成25年1月から公益財団法人）へと引き継ぎ、その後、東北放送、財団法人東北放送文化事業団（平成25年9月から公益財団法人）の参画を得て今日に至ります。東北に根差した文化賞として歩み続けています。

社会の情勢は近年、デジタル技術を新たな創造につなげるデジタルトランスフォーメーションの波が押し寄せるなど、大きな変革の中にあります。私たちは東北の魅力や文化を継承しつつ、変化にも柔軟かつクリエイティブに対応し、より住み良い地域の維持、発展を目指さなければなりません。河北文化賞はそうした先駆的な実践や成果に光を当てる役割も担っています。

河北新報は明治30年1月17日、薩長などによる明治政府から「賊軍」「一山百文」と軽視された白河以北の振興を図ろうと、東北振興、不羈独立を社是に創刊されました。東北の次代に向け、着実な歩みを誓う127周年を迎えた本日、第73回河北文化賞の贈呈式を開催できますことを大変感慨深く受け止めております。

東日本大震災から間もなく13年がたとうとしています。被災地ではインフラなどハード面の復旧・復興は進みましたが、移転先でのコミュニケーションの構築、被災者の心のケアといったソフト面での課題が残されています。真の再生はまだ道半ばです。私たち東北の人間が再生の扉をしっかりと開くべく心を一つとし、手を取り合って歩んでいく先に未来があります。「東北から明日の日本をつくる」という気概を胸に、前を見据えて共に進む決意を新たにしています。着実な一つ一つの積み重ねが、再生や向上を後押ししていくように思います。

河北文化賞受賞者の方々のご功績がさらなる進歩の原動力となり、東北発の実践が日本さらには世界発展の礎石として結実していくことを確信しています。東北を愛し発展させるといふまなざしを大切にしながら、これからも優れた業績の発掘とその顕彰に努めてまいります。

第73回河北文化賞受賞者とその業績

不妊治療の高度生殖補助医療技術に関する先駆的研究とその啓蒙・普及活動への貢献

スズキ記念病院名誉病院長

星

和彦さん(77)

(推挙者 東北大学名誉教授 石田 清仁)

体外受精と顕微授精による妊娠・出産に国内で初めて成功した。不妊に悩む夫婦にとってなくてはならない高度不妊治療の先駆者で、現在に至る発展と普及に道筋をつけた。

英国で1978年に世界初の体外受精の赤ちゃんが生まれる。夫婦から採取した卵子と精子を培養液内で受精させ、子宮内に戻して妊娠させる技術だ。

東北大講師だった79年に上司鈴木雅洲^くさん(故人)から白羽の矢が立って米ハワイに留学。培養液を中心に最先端の生殖技術を学び、帰国後も研究に没頭した。



不妊治療の歩みを振り返る星さん

東北大で妊娠を成功させたのは83年。宮城県内に住む当時30歳の女性で、卵子を運ぶ卵管が詰まる閉塞症^{いさいしやう}による不妊の悩み

を抱えていた。試験管でできた受精卵を子宮に移植すること17人目、35回目の快挙だった。

93年には福島県立医大で精子が少ない男性のための治療法、顕微授精による妊娠も成功させた。直径0・1ミリの卵子に、直径0・005ミリのガラス管で精子を注入し、受精させる。「卵子に傷が付く」と迷ったが「子どもが欲しい夫婦のため」と力を尽くした。

国内初の体外受精から40年、顕微授精から30年。体外受精児は最新で12人に1人の割合になり、国内84万人超が生を受けている。

「体外受精した受精卵の遺伝子などを調べる『命の選別』は慎重であるべきだ。子どもはつくるものではなく、授かりものだから」。命のリレーをつなぐため現場に立ち続ける。

ほし・かずひこ 1946年登米市生まれ。東北大卒。東北大医学部講師、福島県立医大助教授、山梨大教授、同大副学長を経て、2011年東日本大震災を機に帰郷してスズキ記念病院院長。18年から現職。山梨大名誉教授。仙台市在住。

仙台藩文化史と慶長遣欧使節の研究に貢献

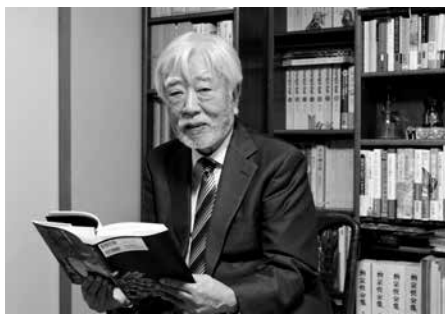
文化史家 濱 田 直 嗣さん(83)

(推挙者 仙台市長郡和子
東北大学名誉教授 平川 新)

1960年代半ば、誕生間もない仙台市博物館の学芸員として仙台藩祖伊達政宗と家臣ゆかりの文化財の調査研究、展示に着手。解明されていなかった近世東北の文化に光を当てた。

美術、建築、風土など多角的な視点で瑞巖寺(宮城県松島町)の障壁画や瑞鳳殿の墓室(仙台市青葉区)、大崎八幡宮(同)など仙台藩の重要な文化財を調査。桃山文化を取り入れ独自の発展を遂げた文化の変遷を博物館から発信した。「研究の成果を市民と分かち合うのが学芸員の務め」との思いは今も揺らがない。

市制100周年記念事業の市史編さんの一環で、政宗が家臣支倉常長を欧州に派遣した「慶長遣欧使節」を改めて調査。66年に国の重要文化財の指定を受けた関係資料は2001年、歴史資料部門初の国宝となった。



著書を手にこれまでの研究を説明する濱田さん

13年に肖像画「支倉常長像」など資料の一部が国連教育科学文化機関(ユネスコ)の世界記憶遺産に。「文化財を支える人々の協力あつての成果。守役として感慨深い」と話す。

使節の復元船「サン・ファン・パウテイスタ号」の建造から解体まで関わった。県慶長使節船ミュージアム(サン・ファン館)館長時代に東日本大震災を経験。「400年前に慶長三陸地震で使節と船は復興の柱、シンボルとなった」と思いを重ね、再建に尽力した。サン・ファン館は24年度のリニューアルに向け情熱を受け継ぐ学芸員たちが準備を進める。「地域と共に新たな博物館像をつくってほしい」とエールを送る。

はまだ・なおつぐ 1940年台湾生まれ。東北大学大学院文学研究科美学美術史修士課程修了。66年に仙台市博物館学芸員となり、94〜2001年館長。10〜22年宮城県慶長使節船ミュージアム館長。著書に「政宗の夢 常長の現」伊達の文化誌」など。仙台市在住。

多年にわたり工芸界の発展向上に寄与

七宝作家 高 橋 通 子 さん(87)

(推荐者 宮城県知事 村 井 嘉 浩)

なかったり、試行錯誤を繰り返し、独学で腕を上げていった。

しばらくは平らな形の作品にとどまっていたが、名古屋市の七宝作家の元へ年2回通い、助言を受けるようになって新境地が開けた。器など立体的な作品に挑んだ35歳の年に、宮城県芸術協会などが主催する県芸術祭で県知事賞を受賞。以降、数々の作品展で入賞、入選を重ねる。一度は途絶えた「省胎七宝」^{しょうたい}の技術も復活させた。悩む作り手がいれば、自分の生徒かどうかを問わず相談に乗る。「技術を自分のものにだけするなんて、もったいない。これからも工芸界全体のレベルアップに協力したい」。「先生」の表情で語った。

器やアクセサリーの素地となる銅の型に銀線とうわぐすりで模様を描き、焼く。自分の教室や全国各地の講習会、中国の大学などで七宝焼の技術を惜しみなく伝え、伝統工芸の裾野を広げてきた。これまで教えた生徒数は、宮城県内だけで1000人を超すという。

幼少期から手芸が好きで自分で縫った洋服を着た。七宝焼を初めて作ったのは20代前半。体育教師として勤務した大阪市の中学校で、同僚の美術教師に材料を見せてもらい、七輪にフライパンをかぶせた自作の窯で焼いてみた。ひたすら手を動かし、のめり込んだ。



自身の作品を手に笑顔を見せる高橋さん

一子相伝といわれる七宝焼の世界。理想の形にたどり着くための教科書はなかった。有名産地の職人を訪ねても、工場に入れてはもらえない。表面が割れたり思うように色が出

たかはし・みちこ 1936年広島市生まれ。72年に日本伝統工芸展で初入選を果たす。79年、県芸術選奨。84年から9年間、河北TBCカルチャーセンター講師。県芸術協会名誉会員。北京工業大芸術設計学院名誉教授。仙台市在住。

日本のものづくりを支える革新的加工技術の創出と社会実装における功績

東北大学共創戦略センター特任教授

厨 川 常 元 さん(66)

(推挙者 東北大学総長 大野 英 男)

スマートフォンのカメラやデジカメ、内視鏡といった形状が複雑な非球面レンズの超精密加工システムや、噴射加工技術を使った新たな歯科治療法を開発。地元企業との連携も図りながら、工業や医療の分野に大きく貢献した。「これまで支援を頂いた皆さんに感謝したい」と喜ぶ。

超精密加工システムの精度はナノ（10億分の1）レベル。仙台ニコン（名取市）、会津オリンパス（会津若松市）などと共同で実用化し、次世代内視鏡や高精細デジカメの普及につなげた。微粒子噴射（パウダージェット）で歯と同じ成分を治療部位に付着さ



自身の研究姿勢について語る厨川さん

せる技術は、虫歯などの新たな治療法として期待され、2022年9月に国から医療機器の承認を受けた。

噴射技術を歯科

治療に利用する構想は20年前、大学院歯学研究科教授だった同級生との雑談から生まれ、別目的の実験での失敗もヒントになった。「誰もが暮らしやすい社会を意識すれば、おのずと研究目的が見つかり、アイデアも湧く。社会のニーズを知るため、現場にいる人とのコミュニケーションを大切にしてきた」と振り返る。

東北の企業技術者との交流を進める「精密加工研究会」を主宰し、34年にわたり人材育成に力を入れてきた。「頭の中から必要な知識を取り出して調査し、新しい技術を創出する意味で、研究者や技術者は料理人に似ている。ものづくり立国・日本の将来を担う若手は、ぜひ『料理の鉄人』を目指してほしい」と願う。

くりやがわ・つねもと 1957年宮城県涌谷町出身。東北大学院工学研究科精密工学専攻修了。同大学院の工学研究科教授、医工学研究科教授などを経て2022年4月から現職。専門はナノ精度加工学。仙台市在住。

カラムシの生産とその繊維を採取する苧^お引き技術の保存・継承^{おひ}における功績

昭和村からむし生産技術保存協会

(推挙者 福島県立博物館館長 川名 義 則)

「からむしだけは絶やすなよ」という先人の言葉を胸に技術の伝承に努めてきた。昭和村からむし生産技術保存協会（福島県）の皆川吉三会長（86）は「技と、守っていかうという心を両輪に続けてきた。先人や多くの関係者全体で受けた賞だ」と喜ぶ。



からむしの買い入れで繊維の質を吟味する鑑定人ら
＝2023年9月27日、福島県昭和村

天然の繊維からむし。昭和村では江戸時代に生産が始まった。真っすぐな糸を得るため、原料となるイラクサ科の多年草カラムシに節やねじれ、傷がないよう丹精込めて育てる。化学肥料は使わない。

刈り取って清水に浸した後、丁寧^{じんねい}に皮をはぎ、苧^お引き^{ひき}具^ぐと呼ばれる道具などを使って繊維を取り出す。キラと呼ばれる光沢を出すには熟練の技が必要だ。営みは代を重ね、今も丁寧に続く。

上質な繊維は新潟県の商人に買い取られ、国重要無形文化財、国連教育科学文化機関（ユネスコ）無形文化財「小千谷縮・越後上布^{ちぢみ}」の原材料となる。1991年、栽培と苧^お引き^{ひき}の技術は国の選定保存技術となり、同時に協会が保存団体に認定された。

村でも手織りの「からむし織」で反物や帯が作られている。94年^{しゅう}からむし織体験生事業が始まり、昨年は30周年記念シンポジウムが開かれた。体験生の一部は村に残り、カラムシ栽培を助けたり、協会の会員となったりしている。

栽培もからむし織も担い手の高齢化が課題。皆川会長は「からむしは村の宝であり、国の宝。技を守るだけでなく、人材を育て後世に残さなくてはいけない」と力を込める。

昭和村からむし生産技術保存協会 昭和村農協からむし部会（1971年設立）が前身で90年に現在の協会となった。会員30人。カラムシ栽培、収穫後の繊維の取り出し技術、苧^お引き^{ひき}を伝承する一方、年4回の講習会などで研さんを続ける。

林道建設に反対し、白神山地の世界遺産登録に道を開いた功績

登山家 根 深 誠さん(76)

(推挙者 青森山田学園理事長 岡 島 成 行)

青森、秋田両県に広がる白神山地を貫く春秋林道の建設を阻止し、世界自然遺産登録への道を開いた。昨年で登録から30年となった白神を今も見つめ続ける。

登山を始めた高校生の時、白神を縦走した。「手づかみでイワナを捕り、クマと遭遇した。純度の高い自然に触れたあの1週間が、反対運動の原点なのかもしれない」と回顧する。

明治大では山岳部に所属し、卒業後もヒマラヤ登山を重ねた。弘前市で会社員をしていた1978年、林道の計画を耳にする。

山菜や魚、まきを採取してきた人々の営みが息づく白神のブナ



自宅の庭に植えたブナの木に触れる
根深さん

林。「経済のために

伐採するのか」と立

ち上がった。83年、

「春秋林道に反対す

る連絡協議会」の事

務局長に就いた。

反対運動は苦難の

道だったが、多くの

協力を得た。全国からの署名は1万3200筆を超え、当時の青森県知事は林道中止を決断。白神のブナ林は守られた。古里の森は人類共通の宝となったが「まだ道半ば」と言う。青森県深浦町の十二湖や県西側の美しい海岸線も遺産に含めて対象を広げ、白神とつながりの深い周辺の縄文遺跡と合わせて複合遺産とするのが理想だ。「現状では縄文から伝わる文化を生かしておらず、もったいない」30年ほど前、青森県内の街中や里山でブナなどの広葉樹の植樹を始めた。「ブナの恵みを伝える世界遺産にふさわしい地域社会をつくりたい」。人々が白神と共生してきた歩みをつなぐ一助になると信じている。

ねぶか・まこと 1947年弘前市生まれ。明治大卒。ヒマ
ラヤ登山や遠征の傍ら、フリーライターとしても活躍。95年
「遙かなるチベット」でJTB紀行文学大賞。「みちのく源流行」
「白神山地をゆく」など著書多数。「津軽百年の森づくり」代表。
弘前市在住。

河北文化賞規定

第1条 河北文化賞は東北地方の文化の向上、産業の興隆

等について貢献顕著な個人もしくは団体に贈る

第2条 河北文化賞は学術、芸術、体育、産業、社会活動の5部門とする

第3条 河北文化賞の審査年度は前年11月3日に始まり当年11月2日に終わるものとする。ただし緊急性のあるものはこの限りではない

第4条 河北文化賞の審査は公益財団法人河北文化事業団理事長の指名する委員会において決定する

第5条 河北文化賞は毎年1月1日の河北新報にその前年度分を発表し1月17日に贈呈式を行う

第6条 河北文化賞は本賞を賞牌とし、副賞として別途定める賞金を添えて贈呈する

第7条 同一業績に対し他の著名賞を受けたもの及び河北文化賞を一度受けたものは原則として除く

河北文化賞

(賞牌)

表紙の写真は故東京芸術大学教授菊池一雄氏の制作による「河北文化賞(賞牌)」で、発展途上にある東北の産業文化にふさわしく、広く文化を象徴する女性に東北の大自然を象徴する山、東北の発展を象徴する産物を配し、希望と野心に満ちた意匠を織り込んでいる。

記念講演

第73回講演

「文章生成AIの

技術革新と社会変容」



東北大学言語AI研究センター
センター長・教授
すずき じゅん
鈴木 潤氏

慶應義塾大学大学院理工学研究科修士課程修了。奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科博士課程修了。2001年～18年、NTTコミュニケーション科学基礎研究所に勤務。18年、東北大学大学院情報科学研究科准教授に着任、20年7月から東北大学データ駆動科学・AI教育研究センター教授。23年10月に東北大学言語AI研究センターが新設されたことに伴いセンター長に就任。17年から理化学研究所革新知能統合研究センター客員研究員も務める。このほか米マサチューセッツ工科大学計算機科学・人工知能研究所客員研究員、米グーグル社客員研究員などを歴任。主に自然言語処理、機械学習、人工知能に関する研究に従事してきた。

第1回	東北大学法学部長 中川善之助
第2回	東北大学名誉教授 熊谷 岱藏
第3回	「文化について」 東北大学学長 高橋 里美
第4回	「古代の東北文化」 文学博士 山田 孝雄
第5回	「科学者の夢」 東北大学電気通信研究所長 渡辺 寧
第6回	「天才と寿命」 東北大学名誉教授 宮城音五郎
第7回	「考古学上から見た古代の東北開発」 東北大学教授 伊東 信雄
第8回	「芳香族の化学について」 東北大学教授 野副 鉄男
第9回	「ストレス学説について」 東北大学学長 黒川 利雄
第10回	「栄養と体力並びに寿命」 東北大学農学部長 有山 恒
第11回	「脳と文化」 東北大学医学部長 本川 弘一
第12回	「安楽死の問題」 東北大学名誉教授 木村 亀二
第13回	「不安と治療および救い」 東北大学学長 石津 照璽
第14回	「科学の進歩と疾病の変貌」 東北大学名誉教授 海老名敏明
第15回	「宇宙開発の現状」 東北大学教授 加藤 愛雄
第16回	「明治維新と仙台」 宮城県民会館館長 佐々 久
第17回	「戊辰の役考」 作家 大池 唯雄
第18回	「自然保護と観光開発」 東北大学教授 加藤陸奥雄
第19回	「史実からみた伊達騒動」 宮城県文化財専門委員 三原 良吉
第20回	「倫理観の今昔」 東北大学名誉教授 吉田 賢抗
第21回	「政宗と常長」 東北大学教授 高橋 富雄
第22回	「宝石あれこれ」 東北大学教授 砂川 一郎
第23回	「エネルギーの現状と将来」 東北電力株式会社常務取締役 中川理一郎
第24回	「都市開発と文化」 東北大学教授 佐々木嘉彦
第25回	「考えて作る楽しみ」 東北大学教授 酒井 高男
第26回	「近世の北方問題と林子平」 文学博士 平 重道
第27回	「道」 瑞巖寺住職 加藤 隆芳
第28回	「地震と地盤」 東北大学名誉教授 奥津 春生
第29回	「星の一生」 仙台市天文台台長 小坂由須人
第30回	「脳卒中の話」 東北大学教授 鈴木 二郎
第31回	「半導体と未来社会」 東北大学教授 西澤 潤一
第32回	「ガンの免疫療法」 東北大学教授 石田名香雄
第33回	「食物成分の不可思議」 東北大学教授 木村 修一
第34回	「セラミック エージの夜明け」 東北大学名誉教授 梅屋 薫
第35回	「東北日本の地震活動・地殻変動の特性」 東北大学教授 高木 章雄

第36回 「キリスト教文化と日本文化」 東北学院大学宗教部長 小笠原政敏 「文学にみる女性像」 宮城学院学院長 早坂 禮吾 第37回 「戊辰の役と庄内藩」 致道博物館名誉館長 酒井 忠明 第38回 「富沢遺跡などに見る東北の古代」 東北福祉大学教授 芹澤 長介 第39回 「人工知能は人間の頭脳にどこまで迫れるか」 東北大学工学部教授 木村 正行 第40回 「21世紀の新素材」 東北大学教授 増本 健 第41回 「東北の国際化を担う空港整備」 運輸省仙台空港長 増子 久弥 第42回 「遣欧使節 支倉常長の実相」 東北大学文学部長 渡辺 信夫 第43回 「奥州平泉文化の特質」 中尊寺貫主 千田 孝信 第44回 「三内丸山遺跡に見る東北の縄文文化」 弘前大学教授 村越 潔	第45回 「思い出の土俵生活」 第二十八代立行司 後藤 悟 第46回 「東北の百年」 東北大学名誉教授 高橋 富雄 第47回 「国際海洋年と地球温暖化」 東北大学教授 田中 正之 第48回 「東北人のこころ」 日銀副総裁 藤原 作弥 第49回 「多賀城から鎌倉へ」 東北歴史博物館長 岡田 茂弘 第50回 「21世紀の学都仙台」 東北大学総長 阿部 博之 第51回 「自然界の不思議―右の世界、左の世界」 東京大学教授 黒田 玲子 第52回 「蝦夷から学ぶリーダー像」 作家 三好 京三 第53回 「宮城県沖地震は本当に来るのか」 東北大学大学院教授 長谷川 昭 第54回 「近未来社会とロボット」 情報科学研究科教授 中野 栄二 第55回 「衝撃波の出ない超音速旅客機を目指して」 防衛庁技術研究本部第三開発主任研究官 前東北大学CROEプログラマー館客員教授 楠瀬 一洋	第56回 「松島増厳寺と伊達政宗―造営400年を前に―」 文化史家・前仙台市博物館館長 濱田 直嗣 第57回 「アクアマリンとシラカンス最前線」 アクアマリンふくしま館長 安部 義孝 第58回 「東北弁とシェイクスピア」 東北学院大学教授 演出家 下館 和巳 第59回 「発酵王国・東北の食文化」 東京農業大学名誉教授・農学博士 小泉 武夫 第60回 「脳を鍛える」 東北大学加齢医学研究所教授 川島 隆太 第61回 「平泉の世界遺産登録の意義―東北の復興に向けて―」 東北芸術工科大学歴史遺産学科教授 入間田宣夫 第62回 「歴史学と災害科学をつなぐ」 東北大学災害科学国際研究所長・教授 平川 新 第63回 「Respect Each Other」 株式会社楽天野球団代表取締役社長 立花 陽三 第64回 「三陸鉄道 復旧・復興の取り組み」 三陸鉄道株式会社代表取締役社長 望月 正彦	第65回 「新しい地震予測に挑む」 東京大学名誉教授・株式会社地震科学探索機構顧問 村井 俊治 第66回 「東北新時代―観光推進による東北の未来―」 東日本製鐵株式紅十字会会長 東北観光推進機構会長 清野 智 第67回 「筆武將、伊達政宗」 歴史家・元仙台市博物館長 佐藤 憲一 第68回 「脱優等生が創るニッポンの未来」 慶應義塾大学先端生命科学研究所所長 富田 勝 第69回 「研究は人と人と人と人」 山形大学大学院有機材料システム研究科教授 城戸 淳二 第70回 「新型コロナウイルス感染症が我々にもたらしたもの」 東北医科薬科大学薬学部感染学教員 賀来 満夫 第71回 「東北 on my mind」 国立研究開発法人産業技術総合研究所最高顧問 中鉢 良治 第72回 「Nanoterasuの光で、東北から日本を変える」 一般財団法人光科学イノベーションセンター理事長 高田 昌樹
---	--	---	--

河北文化賞受賞者

Ⅱ 年度順 Ⅱ

第1回受賞者 (昭和26年度) 音楽教育と作曲 仙台高校教諭 海鋒 義美 東北民家建築の研究と指導 東北大学 工学部教授 小倉 強 超短波の研究とその実用化 東北大学 工学部教授 宇田新太郎 水田裏作の協同化とその普及 大河原裏作 農協副組合長 太田麻之助 中、高等学校漕艇界における稀有の優位と不断の精進 南 光 学 園 東北高校漕艇部	第2回受賞者 (昭和27年度) 「国民体力と食」並びに「学童教育」に関する研究と指導 東北大学 医学部教授 近藤 正二 ジャガイモの育種研究と品種改良の実績 東北農業試験場 栽培第二部長 田口 啓作 世界選手権を獲得、卓球界の復興に寄与 青森市住 佐藤 博治 津波及び津波予報の実際的研究 仙 台 管 区 気 象 台 (並びに元台長故森田稔氏) 只見川電源開発の基礎調査を元遂 只見川調査所関係所員	第3回受賞者 (昭和28年度) 極超短波時分割多重通信の研究とその実用化 東北大学 工学部教授 永井 健二 わが国最高水準にある本荘高校漕艇部に対する不屈不撓の指導とその実用化 秋田県本荘 高校教諭 作左部 忠 東北柔道界発展に対する寄与 柔道8段範士 高橋喜三郎 東北の稲作冷害の研究と耐冷性品種の育成 青森県農事 試験場長 田中 稔 製鉄用大型傘歯車の修理並びにその国産化 富士製鉄金石製鉄所工務部 並びに東北大学工学部成瀬研究室	第4回受賞者 (昭和29年度) 野兔病に関し親子2代にわたる研究 大原綜合病院院長 大原嘗一郎 東北の民謡の研究とその採譜 民謡研究家・作曲家 武田忠一郎 東北体操界の発展に寄与 秋田県体操協会会長 太田口政治 公衆衛生事業に顕著な業績をあげ学術的社会的に貢献 宮城県角田保健所長 小島 武雄 日本海北部沿岸地方における砂防造林法の体系化とその業績 前酒田営林署長 富樫兼治郎
--	--	--	---

第5回受賞者 (昭和30年度) 「拡声器」「室内音響」「騒音防止」に関する研究と指導 東北大学工学部教授 二村 忠元 日本語の実験音響学的研究とその成果 東北大学名誉教授 土居 光知 多年にわたり俳句を指導し 地方俳壇に寄与 俳 人 阿部みどり女 リンゴの栽培を改良指導し 東北果樹産業界に寄与 青森県りんご協会理事 洪川伝次郎 キリスト教独立 高等学園校長 鈴木 弼美	第6回受賞者 (昭和31年度) 東北地方の古代文化に関する考古学的研究 東北大学教授 伊東 信雄 「日本化学総覧」を編集発行し 科学産業に寄与 財団法人 日本化学研究会 東北重量界の発展に対する寄与 福島県重量界協会会長 医師 額賀 誠 広葉樹人絹バルブの工業化により、東北の未利用資源活用の道をひらく 東北バルブ 取締役副社長 片山 知又 育児院の模範的経営と社会福祉事業に貢献 仙台キリスト教 育児院 院長 大坂 鷹司 婦人の地位向上と社会改善に寄与 山形県婦人連盟 60余年にわたり東北の農事改良指導に尽力 国分農主 国分 謙吉	第7回受賞者 (昭和32年度) 鉄鋼資源の国内自給度を高め 東北鉱山業界の発展に寄与 日鉄鉱業釜石鉱業所長 今井 史郎 東北ラグビー界の発展に寄与 秋田ラグビー協会顧問 鎌田 徳治 超音波応用の研究、とくに魚群探知機の成功と実用化 東北大学教授 菊池 喜充 水稻優良品種「サシグレ」を育成普及し食糧増産に寄与 宮城県立農業試験場古川分場 永年気温、水温、流量の監察を記録し、冷地地農業対策に寄与 長井市在住 渋谷 洪衛	第8回受賞者 (昭和33年度) 辺地教育に新しい指針を与え 地域産業の振興に貢献 西川町立大井沢自然博物館 東北農山漁村生活の調査研究と「東北研究畫庫」建設による業績 会津農林高等学校教諭 山口弥一郎 多年にわたり南部杜氏を育成し 東北酒造界の発展に寄与 南部杜氏協会会長 藤村 徳三 東北地方のクル病予防と母子衛生育児知識の普及指導に献身 東北大学教授医学博士 佐野 保 「平頭モリ先」を発明・製作し 日本捕鯨業の躍進に寄与 東京大学教授理学博士 平田 森三 株式会社石巻製作所 専務取締役 仁科 利英
---	---	--	---

第9回受賞者 (昭和34年度) カキ種苗の人工飼育とその産業への応用 東北大学教授 今井 丈夫 理学博士 古印・金石字並びに郷土史料の保存刊行 盛岡市史編集委員 太田孝太郎 民謡の価値を高く評価し、その復活、伝承、普及に尽くす 民謡普及 後藤 桃水 桃水会長 竿灯の伝統を生かし、妙技を発揮して観光東北の名を高む 秋田市竿灯会 永年歌道に精進、歌壇の隆盛に寄与 歌人 結城哀草果	第10回受賞者 (昭和35年度) 農業経営の具体的指導と農士の人材の育成に尽くす 宮城県立農事専長 酒井 馨 わが国初の海底油田を発掘、東北鉱業界に新風を呼ぶ 石油資源開発株式会社 秋田 鉱業所 社会の法知識普及啓発と無料法律相談所など社会福祉事業に貢献 東北大学教授 中川善之助 郷土史の研究とその指導普及に尽くす 郷土家 三原 良吉 画期的な電気通信機器を製作し、通信事業並びに東北の産業界に貢献 谷村株式会社新興製作所	第11回受賞者 (昭和36年度) 由緒ある所蔵品を開放し地方の文化向上と社会教育振興に貢献 本間 美術館 ガラス長繊維についての新技術を確認し、繊維工業の伸長に貢献 兼 日東紡績株式会社前福島工場長 富田 兼康 兼 繊維研究所 害虫学の体系を確立し実地指導により蚊・ハエ撲滅など環境衛生に尽力 東北大学教授 加藤陸奥雄 独特の版画芸術により素朴な郷土風俗を内外に紹介 創作版画家 勝平 得之 粘土礦物によるジオクлайト工業を成功させ東北の地下資源開発に寄与 ジオクлайト化学工業株式会社社長 吉岡寛太郎 卓越した探鉱技術により大鉱床を発見し東北地方の鉱業振興に寄与 同和鉱業株式会社 小坂鉱業所 全国的な各剣道大会で優秀な成績をあげ東北地方の体育を振興 宮城県小牛田農林高校剣道部 名子制度の研究など東北地方の社会経済史を確立 岩手大学教授 森 嘉兵衛	第12回受賞者 (昭和37年度) 金属分析化学の研究と指導にあたり東北金属工業界に寄与 東北大学教授 後藤 秀弘 テレビジョン共同受信の研究など東北の通信文化の向上に尽力 東北大学教授 佐藤利三郎 東北地方の産業経済史関係古文書史料を発掘、日本経済史学界に貢献 福島大学助教授 庄司吉之助 河北美術展及び日本美術院展を通じ東北画壇の興隆に尽くす 日本画家 莊司 福 古代正藍冷染法の継承とその保存に献身 染色工芸家 千葉あやの 重要無形文化財 柔道世界選手権、全日本選手権を獲得、東北柔道界の向上に貢献 秋田県警部補 柔道7段 夏井 昇吉
--	---	--	---

第13回受賞者

(昭和38年度)

フエニンシグ全国大会に優勝し
東北女子体育界に寄与

宮城県が浦高等学校生徒会
体育部フエニンシグ班

モニリア病防除体系を確立し
リンゴ産業界に貢献

青森県りんご試験場長 木村 甚彌

平家琵琶を伝承してその保存に
貢献

平家琵琶研究家 館山 甲午

本宮方式映画教室運動の実践に
より地域文化向上に寄与

福島県本宮町立 本宮小学校

結晶方位の光学的決定法の完成
と結晶定法位切断法の開発

東北大学金属材
料研究所 教授 山本美喜雄

助教授 渡辺 慈朗

講師 佐々木栄一

仙台工機株
式会社社長 伊藤 定雄

第14回受賞者

(昭和39年度)

秋田県農村の医療保健問題を
調査研究しその解決に尽力

秋田県農村医学会

サンマの漁況予測方法を確立し
東北水産業界に貢献

東北水産研究所
資源第一研究室長 堀田 秀之

美術評論家として郷土の民俗芸能
を発掘し地方文化の育成に寄与

美術評論家 森口 多里

仙台白菜など新品種の育成普及
に貢献

渡辺採種場社長 渡辺 顯二

体操選手として長く活躍、東京
オリンピックの団体優勝に寄与

東洋レーヨン 小野 喬

体操選手として活躍、東京オ
リンピックで個人総合優勝

日本大学講師 遠藤 幸雄

重量挙げで次々に世界記録を更
新、東京オリンピックで優勝

自衛隊体育学校 三宅 義信
三等陸尉

東京オリンピックのマラソン、
1万メートル競走に入賞、東北人の精
神力を発揮

自衛隊体育学校
三等陸曹 円谷 幸吉

全日本柔道選手権に3度優勝、
東京オリンピックでも銀メダル
を獲得

富士製鉄 神永 昭夫

重量挙げ選手として活躍、東京
オリンピックで銅メダルを獲得

法政大学生 一ノ関史郎

重量挙げ選手として活躍、東京
オリンピックで銅メダルを獲得

法政大学生 大内 仁

第15回受賞者

(昭和40年度)

民俗学を研究し東北の民間信仰
史料を集大成

福島県立相馬女子
高等学校教頭 岩崎 敏夫

地層の研究により油田など鉱産
資源の開発探査に貢献

秋田大学
鉱山学部教授 藤岡 一男

酸性河水による工作物腐食を究
明し産学協同でその対策を確立

東北大学金属
材料研究所教授 下平 三郎

東北電力株式会社
常務取締役 若林 疆

東北剣道界の普及振興に献身

東北剣道運動顧問
剣道8段 乳井 義輝

行政事務の合理化を实践し「米
沢方式」として全国に範を示す

米沢市長 吉池慶太郎

第16回受賞者 (昭和41年度) 地下水学を体系づけ、温泉開発に応用 弘前大学教育学部教授 酒井軍治郎 新農薬を発明し、水銀毒の排除に成功 東北共同化学工業株式会社 副社長 百足 泰守 集団検診によるガン征圧体制の確立に尽力 宮城県対がん協会 多年レスリング界を指導、育成 日本アマチュア・レスリング協会 参事 笹原 正三 女子バドミントンで初の世界制覇 帝国石油株式会社 秋田鉱業所 横山 満子	第17回受賞者 (昭和42年度) 緯度観測所の発展および東北の農業気象観測に貢献 水沢市名誉市民 池田 徹郎 石川啄木を調査研究して広く世に紹介 岩手芸術協会会長 吉田 孤羊 東北地方に根ざした作曲および合唱音楽に寄与 宮城教育大学教授 福井 文彦 考古学資料を発掘、保存し地方文化に寄与 毛利考古館館長 毛利総七郎 身体不自由児療育の研究実践に尽力 宮城県更生育成医療整形外科 指定 医 協議 会	第18回受賞者 (昭和43年度) 八郎湯の干拓と社会変動を究明し、学会に寄与 秋田大学八郎湯研究委員会 深層地下構造を研究し、東北開発に貢献 東北大学教養部教授 奥津 春生 地域の音楽水準を高揚し、全日本合唱コンクール一般の部で優勝 FMC混声合唱団 東北ラグビー界に貢献し、国体で2年連続優勝 富士製鉄金石製鉄所ラグビー部 重量挙げ選手としてメキシコオリンピックで第3位 三宅 義行	第19回受賞者 (昭和44年度) 集団検診方法の体系化による子宮がん防止に寄与 東北大学医学部教授 同 講 師 九嶋 勝司 野田起一郎 北上川洪水予報体系の確立とダム群統合管理の実践 東北地方建設局岩手工事事務所 全国高校ラグビー大会で13回優勝 秋田県立秋田工業高等学校 ラグビー部 世界女子バドミントン選手権大会で連続優勝に貢献 バドミントン選手 高橋とも子 生涯を社会福祉事業に捧げ施設を経営した功績 弘前愛成園理事長 佐々木寅治郎
--	---	--	---

第20回受賞者 (昭和45年度) 鉱物資源、とくに黒鉱・砂鉄などの処理技術の開発 東北大学選鉱製錬研究所教授 和田 正美 菅江真澄の業績を中心とする東北庶民文化の研究 民俗学者 内田 武志 わが国初の松川地熱発電の開発 日本重化学工業松川地熱発電所代表 富岡 重憲 全国学校音楽合唱部門に優勝5回の偉業 仙台市立五橋中学校 世界卓球選手権大会で優勝 中京大学助手 小和田敏子 多年にわたる郷土の観光産業開発に献身 宮城県・河南町旭山観光協会会長 斎藤壮次郎	第21回受賞者 (昭和46年度) 東北の無形文化財の研究とその保存に寄与 早稲田大学教授 本田 安次 郷土の民俗資料を収集しその保存に貢献 致道博物館 黒川能の伝統継承に尽力 黒川 能 座 画道60年郷土画壇の発展に寄与 画家 菅野 廉 採苗・養殖技術の開発によりホタテ貝の栽培漁業を確立 青森県水産増殖センター 東北の自転車競技発展向上に尽力 宮城県アマチュア自転車競技連盟理事長 猪股 一二	第22回受賞者 (昭和47年度) 温泉医学の基本的研究と臨床的技術の開発 東北大学教授 杉山 尚 和算研究の資料発見、保存に貢献 理学博士 平山 諦 胃集団検診用間接狙撃撮影装置を完成した功績 西山胃腸科院長 西山 正治 黒森歌舞伎の伝統継承に尽力 黒森歌舞伎 救急医療体制の確立とその積極的活動 仙台市立病院 レスリング選手としてミュンヘン・オリンピックで金メダルを獲得 レスリング選手 柳田 英明 ミュンヘン・オリンピックで男子バレーボール金メダル獲得に貢献 バレーボール選手 佐藤 哲夫 ミュンヘン・オリンピックで女子バレーボール銀メダル獲得に貢献 バレーボール選手 島影せい子	第23回受賞者 (昭和48年度) アイバンク設立の基礎を築き世界的水準の角膜移植術を確立 岩手医科大学教授 今泉 亀撒 東北海区の魚類生態系を究明し栽培漁業を開発 東北大学農学部教授 畑中 正吉 全国学校音楽コンクールで連続5回の優勝 山形県立山形西高等学校合唱団 全日本剣道選手権大会で3度天皇杯を獲得 剣道7段 千葉 仁 十和田科学博物館の設立など広域観光開発と地方文化の向上に尽力 十和田開発株式会社社長 杉本 行雄
---	--	---	---

第24回受賞者 (昭和49年度) 肺ガンの早期発見と外科的療法の体系化 東北大学名誉教授 鈴木十賀志 延年の舞の伝統を継承 毛 越 寺 東北の歴史的な重要建造物修復に貢献 文化財建造物保存技術協会修理技師 藤島清太郎 リンゴ優良品種「ふじ」の育成 農林省果樹試験場盛岡支場 リンゴふじ育成グループ 地域の社会福祉事業に献身 社会福祉法人 藤澤母園理事長 渡辺 セツ	第25回受賞者 (昭和50年度) キノコ類の成分解明など薬用植物学の開拓 東北大学薬学部部長 竹本 常松 多年洋画家として活躍、郷土美術界に寄与 洋画家 橋本八百一 白石紙の古漉法を継承 白石和紙工房 遠藤 忠雄 生産と生活の調和を図る地域農業計画の実践 岩手県住田町 農業総合指導協議会 水稻良品種「トヨニシキ」「キヨニシキ」の育成 農林省東北農業試験場栽培第一部育成グループ	第26回受賞者 (昭和51年度) 東北の植物群集の研究と自然保護に貢献 東北学院大学教授 吉岡 邦二 日本画家として郷土画壇に寄与 日本画家 宇野 松仙 永年にわたり書道界の発展に尽力 書家 有井 凌雲 半生を辺地の診療に献身 医師 澤井 七郎 高校バスケットボールで2年連続三冠王 秋田県立能代工業高等学校バスケットボールチーム モントリオール・オリンピック女子バレーボールで金メダルを獲得 バレーボール選手 荒木田裕子 モントリオール・オリンピック柔道で銅メダルを獲得 柔道選手 遠藤 純男 モントリオール・オリンピックレスリングで銅メダルを獲得 レスリング選手 菅原弥三郎 モントリオール・オリンピックレスリングで銅メダルを獲得 レスリング選手 工藤 章	第27回受賞者 (昭和52年度) 新非強磁性インバー合金を開発 東北大学名誉教授 斎藤 英夫 東北大学金属材料研究所助手 深道 和明 東北の地域開発と農業経済に貢献 東北大学名誉教授 木下 彰 仙台堤焼の伝統を継承 陶芸家 針生 嘉孝 地方演劇の振興に尽力 演劇評論家 大山 功 世界卓球選手権大会で優勝 青森県教育委員会主事 河野 満
---	--	---	--

第28回受賞者 (昭和53年度) 実践的地理学の研究で地域開発に貢献 東北学院大学教授 宮川 善造 東北における仏教文化史の研究 岩手県文化財保護審議会委員 司東 真雄 東北の音楽文化向上に寄与 山形交響楽団 日本刀鍛錬技術の伝統を継承 刀匠 法華三郎信房 全国高校スキー大会で初の3連覇 東奥義塾高等学校スキー部	第29回受賞者 (昭和54年度) 文化財保護と郷土史研究に尽力 仙台美術館館長 佐々 久 短歌の創作指導と研究にあげた功績 東北福祉大学教授 扇畑 忠雄 永年の創作活動で郷土画壇に寄与 洋画家 渋谷栄太郎 地域文化の向上と児童文化の振興に貢献 児童文学者 須藤 克三 こけし作り一筋に業界発展に尽くす こけし工人 佐藤 丑蔵 志和型複合経営の確立で地域農業を振興 岩手県志和農業協同組合	第30回受賞者 (昭和55年度) 東北地方の鉱物学研究にあげた業績 東北大学選鉱製錬研究所教授 南部 松夫 雪と雪崩の研究に尽力 和賀岳を愛する会長 高橋 喜平 豪雪地帯の林業技術に関する研究 山形大学農学部 北村昌美教授研究グループ 俳句などの芸術文化活動で地方文化の向上に寄与 宮城県芸術協会理事長 永野 孫柳 全日本学生選手権競漕大会で3連覇達成 東北大学漕艇部	第31回受賞者 (昭和56年度) 脳卒中外科療法の開発と東北での撲滅運動の推進 東北大学医学部教授 鈴木 二郎 東北の古代史研究にあげた功績 岩手大学名誉教授 板橋 源 児童文化の育成と郷土史研究に貢献 おてんとさんの会長 天江 富弥 国体ホッケー少年女子の部で4連覇 岩手県立沼宮内高等学校女子ホッケー部 ボランティア精神に徹した地域の「福祉村」活動 上山市中川福祉村
---	--	--	---

第32回受賞者 (昭和57年度) 自然災害の対策を研究し、東北開発の基盤整備に貢献 東北大学工学部教授 岩崎 敏夫 詩作を通じて東北文化の向上に寄与 詩人 真壁 仁 ラグビー日本選手権で4連勝 新日本製鉄釜石製鉄所ラグビー部 全国中学校軟式野球大会で優勝 秋田市立城東中学校野球部 出版事業を通じて郷土の文化向上に尽力 宝文堂社長 鈴木 武夫	第33回受賞者 (昭和58年度) 東北地方農山漁村の実態調査に挙げた功績 東北大学学芸部教授 竹内 利美 重症肝疾患の病態解析と治療の推進 岩手医科大学教授 海藤 勇 洋画家として東北画壇の育成に尽力 洋画家 杉村 惇 全日本合唱コンクールで4年連続金賞 福島県立安積女子高等学校合唱団 独自の保健医療体制で「保健の村づくり」 岩手県和賀郡沢内村長 太田 祖電	第34回受賞者 (昭和59年度) 東北史の研究と普及に貢献 東北大学教授 高橋 富雄 日本海中部地震の学際研究と提言 弘前大学日本海中部地震研究会 染色工芸を通じて地域文化向上に寄与 仙台安達美術協会会長 宮地 房江 新しい町おこし活動とその成果 岩手県大迫町長 村田 柴太 国体自転車競技総合で5連覇 国体福島県自転車チーム ロサンゼルス・オリンピック柔道(95キロ超級)で金メダル 国士館大学副手 斉藤 仁 ロサンゼルス・オリンピックレスリング(フリースタイル90キロ級)で銀メダル 早稲田大学助手 太田 章 ロサンゼルス・オリンピックレスリング(フリースタイル62キロ級)で銀メダル 日本大学学生 赤石 光生 ロサンゼルス・オリンピック自転車(スプリント)で銅メダル 日本大学学生 坂本 勉 ロサンゼルス・オリンピック女子バレーボールで銅メダル 日立製作所社員 利部 陽子	第35回受賞者 (昭和60年度) 旧石器文化を中心に考古学研究で挙げた功績 東北福祉大学教授 芦澤 長介 東北の精神性を表現する多彩な芸術活動 造形家 岩間 正男 世界柔道選手権大会78^キ以下級で2回連続優勝 岩手県警察本部 巡査部長 日蔭 暢年 全国高校総体で4連勝、全国選抜高校で5連勝 光星学院高等学校レスリング部 半導体および光通信の研究・開発で産業界に貢献 東北大学電気通信研究所長 西澤 潤一 (財)半導体研究所長
--	---	---	---

第36回受賞者 (昭和61年度) 糖尿病の病態解析と地域医療への貢献 東北大学医学部教授 後藤 由夫 形状記憶合金の基礎および応用研究における功績 東北大学連動製錬研究所長 本間 敏夫 東北書道界の発展向上に寄与 書道芸術奨励会長 加藤 翠柳 国体陸上競技100メートル少年の部で3年連続優勝 福島県立会津高等学校3年 五十嵐幸一 ギンザケ養殖の技術確立による複合型養殖業の推進 宮城県志津川町漁業協同組合 一世紀にわたるキリスト教主義教育で人材を育成、社会の発展に寄与 学校法人 東北学院 一世紀にわたるキリスト教主義教育で人間性豊かな女子の育成に寄与 学校法人 宮城学院	第37回受賞者 (昭和62年度) 民間研究者として農業史の研究に尽力 東北農業技術史調査所所長 加藤 治郎 乳がん集団検診体系の確立と推進 東北大学医学部教授 佐藤 寿雄 手づくりの舞台創作活動による地域づくり運動 遠野物語ファンタジー製作委員会 重要無形民俗文化財相馬野馬追の伝承に尽力 相馬野馬追保存会 水稲品種「ササニシキ」の育成と普及指導 元宮城県農業センター長 末永 喜三	第38回受賞者 (昭和63年度) 伊豆沼・内沼の自然環境保全に尽力 伊豆沼管理協議会 道路粉じん健康影響調査における功績 東北大学医学部教授 瀧島 任 東北の風土に根差した版画を国内外で発表 版画家 斎藤 清 全国音楽コンクール中学校の部で3年連続5回目の優勝 八戸市立根城中学校合唱部 新技術開発で東北の産業振興に貢献 東北電子産業社員 佐伯 昭雄 ソウル・オリンピックのレスリング(フリースタイル52^キ級)で優勝 日本体育大学助手 佐藤 満	第39回受賞者 (平成元年度) 磁気記録の高密度化の研究における功績 東北工業大学学長 岩崎 俊一 古代東北史の研究、解明で上げた業績 秋田大学教授 新野 直吉 多年にわたり東北の俳壇隆盛に寄与 俳人 佐藤 鬼房 木工芸の里づくりによる山村の振興 宮城県津山町長 佐々木 一郎 心身障害児者の福祉向上に貢献 仙台市精神薄弱児者育成会理事長 安彦ひさ子
--	--	---	--

第40回受賞者 (平成2年度) 高度情報ネットワークの研究と推進に貢献 東北大学教授 野口 正一 胃癌死亡率の地域差と食生活要因の解明に功績 秋田大学教授 加美山茂利 桜枝岐歌舞伎の保存、伝承における功績 桜枝岐歌舞伎・千葉之家花駒座 東北柔道界の発展に寄与 東北柔道連盟会長 佐藤儀一郎 長年にわたる肢体不自由児の療育事業推進に寄与 宮城県肢体不自由児協会会長 高橋 孝文	第41回受賞者 (平成3年度) アモルファス金属の研究と科学技術への貢献 東北大学教授 増本 健 彫刻芸術と地方文化の振興に寄与した功績 彫刻家 佐藤 忠良 大学野球日本一で東北スポーツ界に希望を与えた功績 東北福祉大学硬式野球部 全国高等学校ボクシング競技において3冠を達成 岩手県立水沢農業高校3年 八重樫 剛 水稻良食味品種「あきたこまち」の育成 秋田県農業試験場 「あきたこまち」育成グループ 要保護児童の養護活動における貢献 社会福祉法人 最上 梅 檀 会	第42回受賞者 (平成4年度) 光エレクトロニクス新分野の研究開発における功績 東北大学名誉教授 東北工業大学教授 稲場 文男 新生児未熟児の集中管理を中心とした周産期医療への貢献 仙台赤十字病院周産期センター 新生児未熟児集中治療部門 登米能の伝承・保存を図り地域文化の向上、振興に貢献 登米 謡 曲 会 農業中毒の防止など健康な農家生活の確立に貢献 青森県農林医学会会長 渡部 忍 民間ボランティアによる多年にわたる電話相談活動の功績 社会福祉法人 仙台いのちの電話 アルペールビル・オリンピックのノルディック複合団体で優勝 リクルート・スキートーム 三ヶ田礼一	第43回受賞者 (平成5年度) マグネティックスの新分野の研究開発と応用における功績 東北大学名誉教授 八戸薬科大学学長 村上 孝一 セントアイトプロセス(強靱鑄鉄製造法)による東北産業界への貢献 東北大学名誉教授 本間 正雄 慶長遣欧使節船「サン・ファン・パウティスタ号」の復元船建造に貢献 村上造船所棟梁 村上定一郎 第4回世界陸上選手権女子マラソンで日本人初の優勝 陸上選手 浅利 純子 全国高校駅伝で初の男女同時優勝 仙台育英学園高校陸上競技部 一世紀にわたるキリスト教主義教育で人間性豊かな女子の育成に寄与 学校法人 尚 綱 女 学 院 一世紀にわたるキリスト教主義教育で人間性豊かな女子の育成に寄与 学校法人 仙台白百合学園
--	---	---	---

第44回受賞者 (平成6年度) トンネル内通信法の発明と実用化に貢献 東北大学教授 千葉 二郎 多年にわたり東北書道界の発展、向上に寄与 書 家 田村 桃溪 国宝・重文など仏像彫刻の保存、修理における功績 財団法人美術院 国宝修理所長 小野寺久幸 東北剣道界の発展、向上に寄与 宮城県剣道連盟 副会長兼理事長 堀籠 敬蔵 第72回日本ノルディックスキースキージュニア選手権で4冠を達成 山形県総合運動都市 公園公社 体育主事 青木富美子 一世紀にわたる個性尊重教育で、有為な人材の育成に寄与 学校法人 南光学園東北高等学校	第45回受賞者 (平成7年度) 未開の金属材料「金属間化合物」を実用化に貢献 東北大学名誉教授 和泉 修 大腸がん集団検診方法の確立に寄与 弘前大学教授 吉田 豊 同 講師 斎藤 博 民間人として郷土史研究に尽くした功績 郷土史家 紫桃 正隆 東北の芸術文化振興に尽力し、後進の育成に貢献 仙台市民ギャラリー 理事長 宮城 正俊 カヌーの町づくりに取り組み、国体2連覇を達成 福島県カヌー協会 難病患者に光をともし20年 社会福祉法人 ありのまま舎	第46回受賞者 (平成8年度) 国語学研究ならびに東北の国語教育における功績 東北大学名誉教授 佐藤喜代治 新生児呼吸窮迫症候群の療法を開発した功績 岩手医科大学教授 藤原 哲郎 金工作家として伝統工芸の継承と発展に寄与 人間国宝 高橋 敬典 創造花火の開発と国際交流における功績 全国花火競技大会 「大曲の花火」実行委員会 腹腔鏡の臨床応用ならびに地域医療への貢献 本荘第一病院院長 小松 寛治	第47回受賞者 (平成9年度) 音の知覚と地域音環境改善の研究における功績 東北大学教授 曾根 敏夫 日本画家として東北画壇の発展と後進の育成に尽力 日本画家 能島 康明 世界初の北極海単独歩行横断を成し遂げた功績 冒険家 大場 満郎 耐震ガラスなど新製品開発と観光による地域活性化に貢献 佐原硝子社長 佐原 得司 洋上救急医療体制の確立に貢献 仙塩総合病院理事長 鈴木 寛
---	---	--	---

第48回受賞者

(平成10年度)

電子的神経・筋系制御システムの開発とその臨床応用における功績

東北大学教授 星宮 望

同 井口 泰孝

同 半田 康延

難治性肝疾患並びに肝臓の病態解析と治療の推進に対する功績

岩手医科大学教授 佐藤 俊一

多年にわたり東北川柳界の発展向上に寄与

川柳作家 菅原 一字

空手世界選手権優勝、アジア大会2連覇、国体6連覇、全日本選手権7連覇を達成

空手選手 阿部 良樹

実学教育により120年にわたって人材育成、社会の発展に寄与

学校法人 朴沢学園

第49回受賞者

(平成11年度)

近世武士住宅に関する一連の研究および仙台城復元計画案策定

東北大学助教授 佐藤 巧

東北地方における音楽文化の振興・発展への貢献

(財)仙台フィルハーモニー管弦楽団

全国高校選抜大会、インターハイ、国体で高校バレー3冠を達成

古川商業高校女子バレーボール部

インターハイ卓球男子団体3連覇を含む全国大会8連続優勝

青森山田高校卓球部男子

葉いもち初発生時期の予察システムを確立し、稲の安定生産技術の開発に貢献

東北いもち病発生予察研究グループ

第50回受賞者

(平成12年度)

肺移植システムの確立など、一連の呼吸器外科療法開発の功績

東北厚生年金病院院長 藤村 重文

多年にわたり郷土画壇の発展と芸術文化の振興に寄与

洋画家 成瀬 忠行

明治の芝居小屋を活用した幅広い芸術文化活動への貢献

秋田県小坂町 康 楽 館

シドニーオリンピック・ソフトボール競技で銀メダル

日立ソフトウェア社員 斎藤 春香

強耐冷性・良食味水稻「ひとめぼれ」の育成

佐々木武彦ほか、ひとめぼれ育成グループ

一世紀にわたり生活に密着した教育と人材の育成に寄与

学校法人 三島学園

第51回受賞者

(平成13年度)

多賀城跡等の発掘調査を通して東北古代史の解明に尽くした功績

宮城県多賀城跡調査研究所

岩手県大迫町での高血圧疫学研究と地域医療貢献

大迫研究グループ

(代表 今井調東北大学大学院薬学専攻教授)

多年にわたり東北日本画界の発展向上に寄与

日本画家 畑井美枝子

東北の伝統芸能を素材にした半世紀にわたる舞台創造の功績

秋田県田沢湖町 劇団わらび座

多年にわたり地域医療に貢献

大泉記念病院院長 高橋 孝

第52回受賞者

(平成14年度)

光導波技術の革新

東北大学名誉教授・
東北大学未来科学技術共同研究センター官員教授
川上彰二郎

粒状体力学の研究とその応用の発展
に関する功績

東北大学名誉教授 佐武 正雄

俳句を通じ地域文化の向上に寄与

須賀川市 桔 樟 吟 社

「茂重波」系統種雄牛の造成事業推進
により肉用牛産業の活性化を実現

種雄牛造成推進グループ
(代表者) 山岸敏宏(東北大学名誉教授)

アテルイ、モレの顕彰活動で地域振
興に貢献

胆江地域顕彰グループ
(代表者) 後藤農水沢市長

第53回受賞者

(平成15年度)

中世東北史の研究と普及に貢献

福島大学名誉教授 小林 清治

多年にわたり東北文芸界の発展向上
に寄与

歌人 扇 畑 利 枝

産学官連携により東北地域における
産業振興・発展に貢献

前東北イテリジント三菱機械推進協議会会長
石田名香雄

百寿を超えてなお経済人として活躍
し、地域経済の発展に寄与

仙台商工会議所顧問 今泉 清

自然環境保護活動と環境教育に対す
る功績

牡蠣の森を築く会代表 畠山 重篤

第54回受賞者

(平成16年度)

がんに対する生体の防御機構の発見
とその後の免疫学研究における功績

山形大学学長 仙道富士郎

ドキュメンタリー映画の普及振興に功績

山形国際ドキュメンタリー映画祭実行委員会

微細加工技術による地域産業等への貢献

東北大学未来科学技術共同研究センター教授
江刺 正喜

河川軸連携による県境を越えた
地域づくりに寄与

北上川流域市町村連携協議会

世界フィギュアスケート選手権
ドルトムント大会で優勝

プリンスホテル 荒川 静香

アテネオリンピックレスリング
女子63キロ級で優勝

中京女子大学 2年 伊調 馨

アテネオリンピックレスリング
女子48キロ級で準優勝

中京女子大学 3年 伊調 千春

アテネオリンピック柔道
男子90キロ級で準優勝

明治大学 4年 泉 浩

アテネオリンピック水泳競技で
2種目に3位入賞

日本大学 2年 森田 智己

第55回受賞者

(平成17年度)

津波総合防災の先駆的展開と貢献

日本大学総合科学研究科教授
東北大学名誉教授
首藤 伸夫

全日本合唱コンクールで
3年連続日本一

郡山市郡山第二中学校合唱部

全国大学対抗戦で男女合わせて
20回優勝

東北福祉大学体育会ゴルフ部

冬の光の祭典を企画・運営し、
地域へ貢献

SENDAI光のページェント実行委員会

一世紀にわたる個性尊重教育で、
有為な人材の育成に寄与

学校法人 仙台育英学園

第56回受賞者 (平成18年度) 赤外レーザー医療装置の根幹技術の 先駆的研究とその開発・実用化 東北大学名誉教授・ 仙台電波工業高等学校校長 宮城 光信 第77回都市対抗野球大会で初優勝、 東北勢初の快挙 TDK硬式野球部 「あ・ら・伊達な道の駅」を経営し、 地域住民にやりがいと活力を与えた 功績 株式会社 池月道の駅 30年にわたり、仙台圏の地域医療支 援に貢献 財団法人 仙台市医療センター仙台オーブン病院	第57回受賞者 (平成19年度) 単結晶材料の研究開発で東北の企業 を育成した功績 東北大学多元物質科学 研究所 名誉教授 福田 承生 東北学の構築と実践による東北文化 への功績 東北芸術工科大学院長 赤坂 憲雄 多年にわたり重度身体障害者の就労 と社会復帰に貢献 錦戸洋服店代表取締役社長 錦戸光一郎 巨大ねぶたを復元し、東北の夏祭り に育て上げた功績 五所川原立俣武多運営委員会	第58回受賞者 (平成20年度) バイオ技術に新しい道をひらく糖鎖 工学の研究 弘前大学学長 遠藤 正彦 多年にわたり工芸界の発展と芸術文 化の向上に寄与 陶芸家・宮城県芸術協会顧問 高倉 健 多年にわたり地域医療に貢献 医師・石巻市常備診療所所長 富永 忠弘 写真文化の普及発展に尽くした功績 財団法人 土門拳記念館	第59回受賞者 (平成21年度) 液晶の基礎研究および高性能液晶 ディスプレイの開発 東北大学大学院 工学研究科教授 内田 龍男 日本刀の制作を通じた日本人の心と 文化の伝承 刀工 上林 恒平 もち性ヒエの開発とその利用による 地域振興 岩手大学農学部附属金沢ワイルド サイエンス教育研究センター教授 星野 次注 『最上川やまがた雛の道』を提唱し、 春の観光を大きく発展させた功績 おひな雛研究家 安部 英子
--	--	--	---

第60回受賞者

(平成22年度)

資源の安定確保へ 秋田大学の挑戦
秋田大学学長 吉村 昇
多年にわたり陶芸界の発展と芸術文化の向上に寄与

陶芸家 針生 乾馬

バンクーバー冬季五輪 スピードスケート男子500メートル銅メダル
日本電産サンキョー 加藤 条治

光エレクトロニクス半導体材料・素子・プロセスに関する研究
東北大学工学部国際高等研究センター客員教授 八百 隆文

将棋を通して伝統文化の普及と向上に寄与するとともに社会貢献に尽力
ナカト代表取締役 中戸 俊洋

誰もが参加でき、気軽に楽しめる無料の市民音楽祭の定着を通じた地域活性化
定禪寺ストリートライブフェスティバル実行委員会

第61回受賞者

(平成23年度)

家畜卵巣卵の高度利用技術の開発
東北大学大学院農学研究科教授 佐藤 英明
全国俳句山寺大会を半世紀にわたって開催した功績
山寺文化保存会

東北の地域づくり活動を先導し地域振興に貢献
民俗研究家・地域づくりプロデューサー 結城登美雄

地域伝統の食文化に学び、食育推進を実践した功績
学校法人杜陵園成高等学校調理科エシキッチン

第62回受賞者

(平成24年度)

大脳の前頭野を活性化させる学習療法を開発、脳機能向上と認知症ケアに貢献した功績
東北大学加齢学研究所教授 川島 隆太
多年にわたり音楽界の発展と芸術文化の向上に寄与した功績
音楽家 片岡 良和
芸術を取り入れた稲作体験
「田んぼアート」で地域振興に貢献
青森県田舎館村むらおこし推進協議会

ロンドン五輪レスリング女子48キロ級で金メダル
自衛隊 小原日登美

ロンドン五輪アーチェリー男子個人で銀メダル
近畿大学職員 古川 高晴

ロンドン五輪卓球女子団体で銀メダル
ANA 福原 愛

ロンドン五輪卓球女子団体で銀メダル
ミキハウス 平野早矢香

ロンドン五輪フエニシング
男子フルレ団体で銀メダル
ネクサス 千田 健太

ロンドン五輪フエニシング
男子フルレ団体で銀メダル
ネクサス 淡路 卓

ロンドン五輪バレーボール女子で銅メダル
日立 江畑 幸子

ロンドン五輪バレーボール女子で銅メダル
JT 大友 愛

第63回受賞者

(平成25年度)

地域がん登録によりがん対策の向上に寄与した功績
宮城県新生物レジストリー委員会
多年にわたり東北日本画壇の発展向上に寄与した功績
日本画家 能島 和明

多年にわたり東北能楽界の発展向上に貢献
能楽師 喜多瀬職分 佐々木宗生

日本車椅子バスケットボール選手権大会で5連覇
宮城MAX

高精度画像認識の研究とその応用展開ならびに情報技術を活用した震災犠牲者の身元確認における功績
東北大学大学院情報科学研究科教授 青木 孝文

第64回受賞者 (平成26年度) 合金などの材料組織制御の基礎研究と東北企業との共同開発・製品化への功績 東北大学名誉教授 石田 清仁 エルビウム光ファイバー増幅器の先駆的研究開発とそれを用いた光通信技術の高度化 東北大学大学院工学部電気通信工学専攻教授 中沢 正隆 多年にわたり宮城県のアート界の発展と文化芸術の向上に寄与 公益社団法人宮城県芸術協会 庄内地域の伝統文化、芸術の保護・継承と地域産業振興への寄与 平田牧場取締役会長 新田 嘉一 東北公益文科大学理事長 ソチ冬季五輪フィギュアスケート男子シングルで金メダル 全日本空輪 羽生 結弦	第65回受賞者 (平成27年度) 東北地方および世界のがん医学への貢献 山形大学医学部 嘉山 孝正 40年にわたりオペラ文化の普及発展に貢献 一般社団法人仙台オペラ協会 多年にわたり美術界の発展と芸術文化の向上に寄与 彫刻家 土屋 瑞穂 原発事故の避難区域で操業継続、高い技術力で復興を牽引 株式会社菊池製作所	第66回受賞者 (平成28年度) 東北地方および世界の小児医療向上への貢献 宮城県立こども病院名誉院長 大井 龍司 多年にわたり漆工芸を通して東北の芸術文化の向上に寄与 漆芸家 香澤 則雄 全日本合唱コンクールで4年連続の混声・女声2冠 郡山市立郡山第五中学校合唱団 リオデジャネイロ五輪バドミントン女子ダブルスで金メダル 日本ユニシス 高橋 礼華 日本ユニシス 松友美佐紀 リオデジャネイロ五輪レスリング男子グレコローマンスタイル59^キ級で銀メダル ALSOR 太田 忍 高校バスケット全国選抜優勝大会3年連続優勝 明成高等学校男子バスケットボール部 省エネに資する超低損失ナノ結晶磁性材料の開発とその工業化による東北の復興・新生への貢献 東北大学リサーチ・ナノフエッサー 金属材料研究所教授 牧野 彰宏	第67回受賞者 (平成29年度) 東日本大震災からの復興支援と実践的防災学の創生 東北大学災害科学国際研究所 全日本合唱コンクール全国大会で3年連続の文部科学大臣賞 岩手県立不來方高等学校音楽部 赤外から青色までの半導体材料とその素子応用によるエレクトロニクスの発展への貢献 東北大学金属材料研究所教授 松岡 隆志 難病と闘う子どもとその家族を支援する活動により地域医療に貢献 認定特定非営利活動法人バンダハウスを育てる会 有機農業の展開を軸にした新しい田園文化社会づくりへの功績 農業 星 寛治
--	--	--	--

第68回受賞者

(平成30年度)

がん対策の発展と公衆衛生の向上に寄与した功績

公益財団法人 久道 茂
宮城県がん協会会長

東北の研究施設として最先端の研究成果を上げ、地域産業の活性化に寄与

慶應義塾大学 富田 勝
先端生命科学研究所長

多年にわたり東北合唱界の発展向上に寄与

宮城県合唱連盟理事長 今井 邦男

膜材料「クレスト」の開発とその工業化による東北への貢献

国立研究開発法人産業技術総合研究所 化学プロセス研究部門首席研究員 梶名 武雄

独自の地域産学官連携スタイルの構築と実践による地域産業への貢献

東北大学大学院 工学研究科教授 堀切川 一男

第69回受賞者

(令和元年度)

東北への次世代放射光施設設置の実現および物質・材料の新しい評価法開発への貢献

東北大学名誉教授 早稲田嘉天

PETによるがん診断法の開発と実用化およびヒト脳加齢の画像研究など脳科学の発展に対する貢献

東北医科大学 医学部 長 福田 寛

ブラックホールの輪郭撮影に初めて成功した国際チームに参加し、重要な役割を果たした業績

国立天文台水沢VLT観測所

彫刻芸術分野における世界的業績および宮城県への貢献

彫刻家 画家 武藤 順九

長年にわたる会津地域、福島県、東北の産業振興への貢献

会津大学産学イノベーションセンター

第70回受賞者

(令和2年度)

生体の酸化ストレス応答機構の解明

東北大学東北メディカル・メガバンク機構長 山本 雅之

多年にわたり東北俳句界の発展向上に寄与

俳人 小熊摩幸 高野ムツオ

東北から日本の絨毯の美しさを世界に広める

オリエンタルカーペット

産学官連携拠点の確立による東北地域産業への貢献

東北大学未来科学技術共同研究センター長 長谷川史彦

仙台の歴史・文化の継承・発展を目的に地域活性化に貢献

仙台・青葉まつり協賛会

第71回受賞者

(令和3年度)

整形外科用の革新的なチタン合金製インプラントの開発への貢献

東北大学名誉教授 花田 修治

多年にわたり日本画界の発展と文化芸術の向上に寄与

日本画家 小野 恬

リアルタイム津波浸水被害予測システムの開発と運用による災害レジリエンス向上への貢献

東北大学工学部 国際研究所教授 越村 俊一

「仙台・江戸学」の講座開催および叢書発行による地域貢献

国宝 大崎八幡宮 仙台・江戸学実行委員会

東日本震災と原発事故を受けた住民の健康維持と医療関連産業の集積による復興加速化

福島県立医科大学 大学

ふくしま国際医療科学センター

2020年東京五輪卓球男子団体で銅メダル 卓球選手 張本 智和

2020年東京パラリンピックバドミントン女子で銀銅メダル

パラバドミントン選手 鈴木亜弥子

2020年東京パラリンピック車いすバスケットボール男子で銀メダル

車いすバスケットボール選手 豊島 英

2020年東京パラリンピック車いすバスケットボール男子で銀メダル

車いすバスケットボール選手 藤本 怜央

第72回受賞者

(令和4年度)

災害復興と地域振興のための電波科学利用に関する貢献

東北大学東北アジア
研究センター教授

佐藤 源之

三陸地方を拠点にした海の民俗研究を通して、災害復興の地平に新たな価値観の必要性を示した功績

民俗学者 川島 秀一

多年にわたる民話の採訪活動と東日本大震災後の東北文化の価値向上への功績

みやぎ民話の会顧問・
児童文学者・翻訳家

小野 和子

第104回全国高校野球選手権大会優勝

仙台育英学園高等学校硬式野球部

北京冬季五輪スキージャンプ男子個人ノーマルヒルで金メダル、ラージヒルで銀メダル

スキージャンプ選手

小林 陵侑

北京冬季五輪ノルディックスキー複合男子団体で銅メダル

ノルディックスキー複合選手

永井 秀昭

	年度
堀籠 敬蔵	平 6
星宮 望	10
朴 沢 学 園	〃
星野 次汪	21
星 寛治	29
堀切川一男	30
星 和彦	令 5

【ま】

真壁 仁	昭57
増本 健	平 3
牧野 彰宏	28
松岡 隆志	29

【み】

宮城県立農業試験場古川分場	昭32
三原 良吉	35
宮城県小牛田農林高校剣道部	36
宮城県鼎が浦高等学校生徒会	
体育部フェンシング班	38
三宅 義信	39
宮城県対がん協会	41
宮城県更生育成医療整形外科指定医協議会	42
三宅 義行	43
宮川 善造	53
宮地 房江	59
宮城県志津川漁業協同組合	61
宮 城 学 院	〃
三ヶ田礼一	平 4
宮城 正俊	7
三 島 学 園	12
宮城県多賀城跡調査研究所	13
宮城 光信	18
宮城県新生物レジストリー委員会	25
宮城M A X	〃
宮城県芸術協会	26

【む】

村田 柴太	昭59
村上 孝一	平 5
村上定一郎	〃
武藤 順九	令元

【め】

明成高等学校調理科リエゾンキッチン	平23
明成高等学校男子バスケットボール部	28

【も】

森 嘉兵衛	昭36
本宮小学校（福島県）	38
森口 多里	39
百足 泰守	41

	年度
毛利総七郎	昭42
毛 越 寺	49
最上梅檀会	平 3
森田 智己	16

【や】

山形県婦人連盟	昭31
山口弥一郎	33
谷村株式会社新興製作所	35
山本美喜雄	38
柳田 英明	47
山形県立山形西高等学校合唱団	48
山形交響楽団	53
山形大学北村昌美教授研究グループ	55
八重樫 剛	平 3
山形国際ドキュメンタリー	
映画祭実行委員会	16
八百 隆文	22
山寺文化保存会	23
山本 雅之	令 2

【ゆ】

結城袁草果	昭34
結城登美雄	平23

【よ】

吉岡覚太郎	昭36
吉池慶太郎	40
横山 満子	41
吉田 孤羊	42
吉岡 邦二	51
吉田 豊	平 7
吉村 昇	22

【わ】

渡辺 慈朗	昭38
渡辺 颯二	39
若林 彊	40
和田 正美	45
渡辺 セツ	49
渡部 忍	平 4
わらび座（秋田県田沢湖町）	13
早稲田嘉夫	令元

	年度
遠野物語ファンタジー制作委員会	昭62
東北福祉大学硬式野球部	平 3
登米謡曲会	4
東北いもち病発生予察研究グループ	11
東北福祉大学体育会ゴルフ部	17
富永 忠弘	20
土門拳記念館	〃
東北大学災害科学国際研究所	29
富田 勝	30
豊島 英	令 3

【な】

永井 健三	昭28
中川善之助	35
夏井 昇吉	37
南部 松夫	55
永野 孫柳	〃
南光学園東北高等学校	平 6
成瀬 忠行	12
中戸 俊洋	22
中沢 正隆	26
永井 秀昭	令 4

【に】

二村 忠元	昭30
日本化学研究会	31
西川町立大井沢自然博物館	33
仁科 利英	〃
乳井 義耀	40
西山 正治	47
西澤 潤一	60
新野 直吉	平元
錦戸光一郎	19
新田 嘉一	26
認定特定非営利活動法人パンダハウスを育てる会	29

【ぬ】

額賀 誠	昭31
------	-----

【ね】

根深 誠	令 5
------	-----

【の】

野田起一郎	昭44
農林省果樹試験場盛岡支場リングふじ育成グループ	49
農林省東北農業試験場栽培第一部育成グループ	50
野口 正一	平 2
能島 康明	9
能島 和明	25

年度

【は】

畑中 正吉	昭48
橋本八百二	50
針生 嘉孝	52
八戸市立根城中学校合唱部	63
半田 康延	平10
畑井美枝子	13
畠山 重篤	15
針生 乾馬	22
羽生 結弦	26
長谷川史彦	令 2
花田 修治	3
張本 智和	〃
濱田 直嗣	5

【ひ】

平田 森三	昭33
平山 諦	47
弘前大学日本海中部地震研究会	59
日蔭 暢年	60
桧枝岐歌舞伎・千葉之家花駒座	平 2
平野早矢香	24
久道 茂	30

【ふ】

富士製鉄釜石製鉄所工務部並びに 東北大学工学部成瀬研究室	昭28
藤村 徳三	33
藤岡 一男	40
福井 文彦	42
富士製鉄釜石製鉄所ラグビー部	43
藤島清太郎	49
深道 和明	52
福島県立安積女子高等学校合唱団	58
福島県カヌー協会	平 7
藤原 哲郎	8
古川商業高校女子バレーボール部	11
藤村 重文	12
福田 承生	19
古川 高晴	24
福原 愛	〃
福田 寛	令元
福島県立医科大学ふくしま国際医療科学センター	3
藤本 怜央	〃

【ほ】

本間美術館	昭36
堀田 秀之	39
本田 安次	46
法華三郎信房	53
本間 敏夫	61
本間 正雄	平 5

	年度
渋谷 洪衛	昭32
庄司吉之助	37
荘司 福	〃
下平 三郎	40
島影せい子	47
司東 真雄	53
渋谷栄太郎	54
新日本製鉄釜石製鉄所ラグビー部	57
尚綱女学院	平 5
紫桃 正隆	7
種雄牛造成推進グループ（宮城県）	14
首藤 伸夫	17
定禪寺ストリートジャズフェスティバル実行委員会	22
昭和村からむし生産技術保存協会	令 5

【す】

鈴木 弼美	昭30
杉山 尚	47
杉本 行雄	48
鈴木千賀志	49
菅原弥三郎	51
須藤 克三	54
鈴木 二郎	56
鈴木 武夫	57
杉村 惇	58
末永 喜三	62
鈴木 寛	平 9
菅原 一字	10
鈴木亜弥子	令 3

【せ】

仙台管区気象台	昭27
石油資源開発株式会社秋田鉱業所	35
仙台市立五橋中学校	45
仙台市立病院	47
芹澤 長介	60
仙台いのちの電話	平 4
仙台赤十字病院周産期センター	〃
新生児未熟児集中治療部門	〃
仙台育英学園高校陸上競技部	5
仙台白百合学園	〃
全国花火競技大会	
「大曲の花火」実行委員会	8
仙台フィルハーモニー管弦楽団	11
仙道富士郎	16
SENDAI 光のページェント実行委員会	17
仙台育英学園	〃
仙台市医療センター仙台オープン病院	18
仙台オペラ協会	27
仙台・青葉まつり協賛会	令 2
仙台育英学園高等学校硬式野球部	4

【そ】

相馬野馬追保存会	昭62
曽根 敏夫	平 9

【た】

田口 啓作	昭27
只見川調査所関係所員	〃
高橋喜三郎	28
田中 稔	〃
武田忠一郎	29
館山 甲午	38
高橋とも子	44
竹本 常松	50
高橋 喜平	55
竹内 利美	58
高橋 富雄	59
瀧島 任	63
高橋 孝文	平 2
田村 桃溪	6
高橋 敬典	8
高橋 孝	13
胆江地域アテルイ、モレ顕彰グループ	14
高倉 健	20
高橋 礼華・松友美佐紀	
バドミントン女子ダブルスペア	28
高野ムツオ	令 2
高橋 通子	5

【ち】

千葉あやの	昭37
致道博物館	46
千葉 仁	48
千葉 二郎	平 6
千田 健太	24

【つ】

円谷 幸吉	昭39
土屋 瑞穂	平27

【て】

T D K 硬式野球部	平18
-------------	-----

【と】

東北高校漕艇部	昭26
富樫兼治郎	29
土居 光知	30
富田 兼康	36
東北地方建設局岩手工事事務所	44
富岡 重憲	45
東奥義塾高等学校スキー部	53
東北大学漕艇部	55
東北学院	61

	年度		年度
オリエンタルカーペット	令 2	後藤 由夫	昭61
小野 恬	3	小松 寛治	平 8
小野 和子	4	康楽館（秋田県小坂町）	12
【か】		小林 清治	15
海鋒 義美	昭26	郡山市立郡山第二中学校合唱部	17
片山 知又	31	五所川原立佞武多運営委員会	19
鎌田 徳治	32	郡山市立郡山第五中学校合唱団	28
加藤陸奥雄	36	国立天文台水沢 VLBI 観測所	令元
勝平 得之	〃	越村 俊一	3
神永 昭夫	39	国宝大崎八幡宮 仙台・江戸学実行委員会	〃
菅野 廉	46	小林 陵侑	4
河野 満	52	【さ】	
上山市中川福祉村	56	佐藤 博治	昭27
海藤 勇	58	作左部 忠	28
利部 陽子	59	佐野 保	33
加藤 翠柳	61	酒井 馨	35
加藤 治郎	62	佐藤利三郎	37
加美山茂利	平 2	佐々木栄一	38
川上彰二郎	14	酒井軍治郎	41
上林 恒平	21	笹原 正三	〃
加藤 条治	22	佐々木寅次郎	44
川島 隆太	24	斎藤莊次郎	45
片岡 良和	〃	佐藤 哲夫	47
嘉山 孝正	27	澤井 七郎	51
川島 秀一	令 4	斎藤 英夫	52
【き】		佐々 久	54
菊池 喜充	昭32	佐藤 丑蔵	〃
木村 基弥	38	斉藤 仁	59
木下 彰	52	坂本 勉	〃
桔 稯 吟 社（須賀川市）	平14	佐藤 壽雄	62
北上川流域市町村連携協議会	16	斎藤 清	63
株式会社菊池製作所	27	佐伯 昭雄	〃
【く】		佐藤 満	〃
九嶋 勝司	昭44	佐藤 鬼房	平元
黒川 能 座	46	佐々木一郎	〃
黒森歌舞伎	47	佐藤儀一郎	2
工藤 章	51	佐藤 忠良	3
杳澤 則雄	平28	斎藤 博	7
厨川 常元	令 5	佐藤喜代治	8
【こ】		佐原 得司	9
近藤 正二	昭27	佐藤 俊一	10
国分 謙吉	31	佐藤 巧	11
後藤 桃水	34	斎藤 春香	12
小坂鉦業所	36	佐々木武彦ほか、ひとめぼれ育成グループ	〃
後藤 秀弘	37	佐武 正雄	14
小和田敏子	45	佐藤 英明	23
国体福島県自転車チーム	59	佐々木宗生	25
光星学院高等学校レスリング部	60	佐藤 源之	令 4
		【し】	
		渋川伝次郎	昭30

= 50音別索引 =

今泉	清	平15
伊調	馨	16
伊調	千春	〃
泉	浩	〃
池月	道の駅	18
田舎館村	むらおこし推進協議会	24
石田	清仁	26
岩手県	立不来方高等学校音楽部	29
今井	邦男	30

【う】

宇田新太郎	昭26
内田 武志	45
宇野 松仙	51
内田 龍男	平21

【え】

遠藤 幸雄	昭39
FMC混声合唱团	43
遠藤 忠雄	50
遠藤 純男	51
江刺 正喜	平16
遠藤 正彦	20
江畑 幸子	24
蛸名 武雄	30

【(v)】

伊東 信雄	昭31
今井 史郎	32
今井 丈夫	34
伊藤 定雄	38
一ノ関 史郎	39
岩崎 敏夫	40
池田 徹郎	42
猪股 一二	46
今泉 亀撒	48
岩手県住田町農業総合指導協議会	50
岩手県志和農業協同組合	54
板橋 源	56
岩手県立沼宮内高等学校女子ホッケー部	〃
岩崎 敏夫	57
岩間 正男	60
五十嵐幸一	61
伊豆沼管理協議会	63
岩崎 俊一	平元
稲場 文男	4
和泉 修	7
井口 泰孝	10
石田名香雄	15

【お】

小倉 強	昭26
太田麻之助	〃
大原嘗一郎	29
太田口政治	〃
小島 武雄	〃
大坂 鷹司	31
太田孝太郎	34
小野 喬	39
大内 仁	〃
奥津 春生	43
大山 功	52
扇畑 忠雄	54
太田 祖電	58
太田 章	59
小野寺久幸	平 6
大場 満郎	9
大迫研究グループ（代表今井潤）	13
扇畑 利枝	15
小原日登美	24
大友 愛	〃
大井 龍司	28
太田 忍	〃

部門	年度	氏 名
社会活動	昭30	鈴 木 弼 美
	31	大 坂 鷹 司
	〃	〃 山形県婦人連盟
	33	佐 野 保
	35	中 川 善之助
	38	本 宮 小 学 校（福島県）
	40	吉 池 慶太郎
	42	宮城県更正育成医療整形外科 指定医協議会
	44	佐々木 寅次郎
	47	仙台市立病院
	49	渡 辺 セ ツ
	51	澤 井 七 郎
	56	上山市中川福祉村
	57	鈴 木 武 夫
	58	太 田 祖 電
	59	村 田 柴 太
	61	学校法人 東北学院
	62	学校法人 宮城学院
	〃	相馬野馬追保存会
	平元	安 彦 ひさ子
	2	高 橋 孝 文
	3	社会福祉法人 最上梅檀会
	4	仙台いのちの電話
	5	学校法人 尚綱女学院
	〃	学校法人 仙台白百合学園
	6	学校法人 南光学園東北高等学校
	7	ありのまま舎
	8	小 松 寛 治
	9	鈴 木 寛
	10	学校法人 朴沢学園
	12	学校法人 三島学園
	13	高 橋 孝
	14	胆江地域アテルイ、モレ顕彰グループ
	15	畠 山 重 篤
	16	北上川流域市町村連携協議会
	17	SENDAI 光のページェント 実行委員会
	〃	学校法人 仙台育英学園
	18	仙台市医療センター仙台オープン病院
	19	錦 戸 光一郎
	〃	五所川原立佞武多運営委員会
	20	富 永 忠 弘
	21	安 部 英 子
	22	吉 村 昇
	〃	中 戸 俊 洋
	〃	定禅寺ストリートジャスフェスティバル 実行委員会

部門	年度	氏 名
社会活動	23	結 城 登美雄
	〃	〃 明成高等学校調理科リエゾンキッチン
	24	田舎館村むらおこし推進協議会
	25	青 木 孝 文
	26	新 田 嘉 一
	29	認定特定非営利活動法人 パンダハウスを育てる会
	〃	〃 星 寛 治
	令2	仙台・青葉まつり協賛会
	3	国宝大崎八幡宮 仙台・江戸 学実行委員会
	〃	〃 福島県立医科大学ふくしま 国際医療科学センター
	4	小 野 和 子
	5	根 深 誠

部門	年度	氏 名
体育	16	森 田 智 己
	17	東北福祉大学体育会ゴルフ部
	18	T D K 硬式野球部
	22	加 藤 条 治
	24	小 原 日登美
	〃	古 川 高 晴
	〃	福 原 愛
	〃	平 野 早矢香
	〃	千 田 健 太
	〃	淡 路 卓
	〃	江 畑 幸 子
	〃	大 友 愛
	25	宮 城 M A X
	26	羽 生 結 弦
	28	高橋礼華・松友美佐紀
		バドミントン女子ダブルスペア
	〃	太 田 忍
	〃	明成高等学校男子バスケットボール部
	令3	張 本 智 和
	〃	鈴 木 亜弥子
	〃	豊 島 英
	〃	藤 本 怜 央
	4	小 林 陵 侑
	〃	仙台育英学園高等学校硬式 野球部
	〃	永 井 秀 昭
産業	昭26	太 田 麻之助
	27	仙台管区气象台
	〃	只見川調査所関係所員
	28	田 中 稔
	〃	富士製鉄釜石製鉄所工務部並びに 東北大学工学部成瀬研究室
	29	小 島 武 雄
	〃	富 樫 兼治郎
	30	渋 川 伝次郎
	31	片 山 知 又
	〃	国 分 謙 吉
	32	菊 池 喜 充
	〃	宮城県立農業試験場古川分場
	〃	渋 谷 洪 衛
	33	藤 村 徳 三
	〃	平 田 森 三
	〃	仁 科 利 英
	35	酒 井 馨
	〃	石油資源開発株式会社秋田鉱業所
	〃	谷村株式会社新興製作所
	36	吉 岡 覚太郎
	〃	小 坂 鉱 業 所

部門	年度	氏 名
産業	39	堀 田 秀 之
	〃	渡 辺 穎 二
	41	百 足 泰 守
	45	斎 藤 莊次郎
	46	青森県水産増殖センター
	48	畑 中 正 吉
	〃	杉 本 行 雄
	49	農林省果樹試験場盛岡支場 リングふじ育成グループ
	50	遠 藤 忠 雄
	〃	岩手県住田町農業総合指導協議会
	〃	農林省東北農業試験場栽培 第一部育成グループ
	52	木 下 彰
	54	岩手県志和農業協同組合
	61	志津川町漁業協同組合
	62	末 永 喜 三
	63	佐 伯 昭 雄
	平元	佐々木 一 郎
	3	秋田県農業試験場「あきた こまち」育成グループ
	4	渡 部 忍
	5	本 間 正 雄
	〃	村 上 定一郎
	8	全国花火競技大会 「大曲の花火」実行委員会
	9	佐 原 得 司
	11	東北いもち病発生予察研究グループ
	12	佐々木武彦ほか、ひとめぼれ 育成グループ
	14	種雄牛造成推進グループ（宮城県）
	15	石 田 名 香 雄
	〃	今 泉 清
	16	江 刺 正 喜
	18	池 月 道 の 駅
	21	星 野 次 汪
	22	八 百 隆 文
	27	株式会社菊池製作所
	28	牧 野 彰 宏
	29	松 岡 隆 志
	30	蛭 名 武 雄
	〃	堀切川 一 男
	令元	会津大学産学イノベーションセンター
	2	オリエンタルカーベット
	〃	長谷川 史 彦
	3	越 村 俊 一
	5	厨 川 常 元
	〃	昭和村からむし生産技術保存協会

部門	年度	氏 名
芸術	13	畑 井 美枝子
〃	〃	劇団 わらび座 (秋田県田沢湖町)
〃	14	桔 棹 吟 社 (須賀川市)
〃	15	扇 畑 利 枝
〃	16	山形国際ドキュメンタリー 映画祭実行委員会
〃	17	郡山市立郡山第二中学校合唱部
〃	20	高 倉 健
〃	〃	土門拳記念館
〃	21	上 林 恒 平
〃	22	針 生 乾 馬
〃	23	山寺文化保存会
〃	24	片 岡 良 和
〃	25	能 島 和 明
〃	〃	佐々木 宗 生
〃	26	宮城県芸術協会
〃	27	仙台オペラ協会
〃	〃	土 屋 瑞 穂
〃	28	杳 澤 則 雄
〃	〃	郡山市立郡山第五中学校合唱団
〃	29	岩手県立不来方高等学校音楽部
〃	30	今 井 邦 男
〃	令元	武 藤 順 九
〃	2	高 野 ムツオ
〃	3	小 野 恬
〃	5	高 橋 通 子
体育	昭26	東北高校漕艇部
〃	27	佐 藤 博 治
〃	28	作左部 忠
〃	〃	高 橋 喜三郎
〃	29	太田口 政 治
〃	31	額 賀 誠
〃	32	鎌 田 徳 治
〃	36	小牛田農林高校剣道部
〃	37	夏 井 昇 吉
〃	38	鼎が浦高校フェンシング班
〃	39	小 野 喬
〃	〃	遠 藤 幸 雄
〃	〃	三 宅 義 信
〃	〃	円 谷 幸 吉
〃	〃	神 永 昭 夫
〃	〃	一ノ関 史 郎
〃	〃	大 内 仁
〃	40	乳 井 義 耀
〃	41	笹 原 正 三
〃	〃	横 山 満 子
〃	43	富士製鉄釜石製鉄所ラグビー部
〃	〃	三 宅 義 行

部門	年度	氏 名
体育	44	秋田工業高校ラグビー部
〃	〃	高 橋 とも子
〃	45	小和田 敏 子
〃	46	猪 股 一 二
〃	47	柳 田 英 明
〃	〃	佐 藤 哲 夫
〃	〃	島 影 せい子
〃	48	千 葉 仁
〃	51	秋田県立能代工業高校 バスケットボールチーム
〃	〃	荒木田 裕 子
〃	〃	遠 藤 純 男
〃	〃	菅 原 弥三郎
〃	〃	工 藤 章
〃	52	河 野 満
〃	53	東奥義塾高校スキー部
〃	55	東北大学漕艇部
〃	56	岩手県立沼宮内高校女子ホッケー部
〃	57	新日鉄釜石ラグビー部
〃	〃	秋田市立城東中学校野球部
〃	59	国体福島県自転車チーム
〃	〃	斉 藤 仁
〃	〃	太 田 章
〃	〃	赤 石 光 生
〃	〃	坂 本 勉
〃	〃	利 部 陽 子
〃	60	日 蔭 暢 年
〃	〃	光星学院高校レスリング部
〃	61	五十嵐 幸 一
〃	63	佐 藤 満
〃	平2	佐 藤 儀一郎
〃	3	東北福祉大学硬式野球部
〃	〃	八重樫 剛
〃	4	三ヶ田 礼 一
〃	5	浅 利 純 子
〃	〃	仙台育英学園高校陸上競技部
〃	6	堀 籠 敬 蔵
〃	〃	青 木 富美子
〃	7	福島県カヌー協会
〃	9	大 場 満 郎
〃	10	阿 部 良 樹
〃	11	古川商業高校女子バレーボール部
〃	〃	青森山田高校卓球部男子
〃	12	斎 藤 春 香
〃	16	荒 川 静 香
〃	〃	伊 調 馨
〃	〃	伊 調 千 春
〃	〃	泉 浩

部門	年度	氏 名
学術	10	星 宮 望
〃	〃	井 口 泰 孝
〃	〃	半 田 康 延
〃	〃	佐 藤 俊 一
〃	11	佐 藤 巧
〃	12	藤 村 重 文
〃	13	宮城県多賀城跡調査研究所
〃	〃	大迫研究グループ（代表今井潤）
〃	14	川 上 彰二郎
〃	〃	佐 武 正 雄
〃	15	小 林 清 治
〃	16	仙 道 富士郎
〃	17	首 藤 伸 夫
〃	18	宮 城 光 信
〃	19	福 田 承 生
〃	〃	赤 坂 憲 雄
〃	20	遠 藤 正 彦
〃	21	内 田 龍 男
〃	23	佐 藤 英 明
〃	24	川 島 隆 太
〃	25	宮城県新生物レジストリー委員会
〃	26	石 田 清 仁
〃	〃	中 沢 正 隆
〃	27	嘉 山 孝 正
〃	28	大 井 龍 司
〃	29	東北大学災害科学国際研究所
〃	30	久 道 茂
〃	〃	富 田 勝
〃	令元	早稲田 嘉 夫
〃	〃	福 田 寛
〃	〃	国立天文台水沢 VLBI 観測所
〃	2	山 本 雅 之
〃	3	花 田 修 治
〃	4	川 島 秀 一
〃	〃	佐 藤 源 之
〃	5	星 和 彦
〃	〃	濱 田 直 嗣
芸術	昭29	武 田 忠一郎
〃	30	阿 部 みどり女
〃	34	後 藤 桃 水
〃	〃	秋田市竿灯会
〃	〃	結 城 哀草果
〃	35	三 原 良 吉
〃	36	勝 平 得 之
〃	37	荘 司 福
〃	〃	千 葉 あやの
〃	38	館 山 甲 午
〃	39	森 口 多 里

部門	年度	氏 名
芸術	40	岩 崎 敏 夫
〃	42	吉 田 孤 羊
〃	〃	福 井 文 彦
〃	43	FMC混声合唱団
〃	45	内 田 武 志
〃	〃	仙台市立五橋中学校
〃	46	菅 野 廉
〃	〃	黒 川 能 座
〃	〃	致 道 博 物 館
〃	〃	本 田 安 次
〃	47	黒 森 歌 舞 伎
〃	48	山形県立山形西高校合唱団
〃	〃	毛 越 寺
〃	49	藤 島 清太郎
〃	50	橋 本 八百二
〃	51	宇 野 松 仙
〃	〃	有 井 凌 雲
〃	52	針 生 嘉 孝
〃	〃	大 山 功
〃	53	山形交響楽団
〃	〃	法 華 三 郎 信 房
〃	54	扇 畑 忠 雄
〃	〃	洪 谷 栄太郎
〃	〃	須 藤 克 三
〃	〃	佐 藤 丑 藏
〃	55	永 野 孫 柳
〃	57	真 壁 仁
〃	58	福島県立安積女子高校合唱団
〃	〃	杉 村 惇
〃	59	宮 地 房 江
〃	60	岩 間 正 男
〃	61	加 藤 翠 柳
〃	62	遠野物語ファンタジー制作委員会
〃	63	斎 藤 清
〃	〃	八戸市立根城中学校合唱部
〃	平元	佐 藤 鬼 房
〃	2	桧枝岐歌舞伎・千葉之家花駒座
〃	3	佐 藤 忠 良
〃	4	登 米 謡 曲 会
〃	6	田 村 桃 溪
〃	〃	小野寺 久 幸
〃	7	宮 城 正 俊
〃	8	高 橋 敬 典
〃	9	能 島 康 明
〃	10	菅 原 一 宇
〃	11	仙台フィルハーモニー管弦楽団
〃	12	成 瀬 忠 行
〃	〃	康楽館（秋田県小坂町）

河北文化賞受賞者 =部門別索引=

部門	年度	氏 名	部門	年度	氏 名
学術	昭26	海 鋒 義 美	学術	48	今 泉 亀 撤
〃	〃	小 倉 強	〃	49	鈴 木 千賀志
〃	〃	宇 田 新太郎	〃	50	竹 本 常 松
〃	27	近 藤 正 二	〃	51	吉 岡 邦 二
〃	〃	田 口 啓 作	〃	52	斎 藤 英 夫
〃	28	永 井 健 三	〃	〃	深 道 和 明
〃	29	大 原 嘗一郎	〃	53	宮 川 善 造
〃	30	二 村 忠 元	〃	〃	司 東 真 雄
〃	〃	土 居 光 知	〃	54	佐 々 久
〃	31	伊 東 信 雄	〃	55	南 部 松 夫
〃	〃	日本化学研究会	〃	〃	高 橋 喜 平
〃	32	今 井 史 郎	〃	〃	山形大学農学部北村昌美教授
〃	33	西川町立大井沢自然博物館	〃	〃	研究グループ
〃	〃	山 口 弥一郎	〃	56	鈴 木 二 郎
〃	34	今 井 丈 夫	〃	〃	板 橋 源
〃	〃	太 田 孝太郎	〃	〃	天 江 富 弥
〃	36	本 間 美 術 館	〃	57	岩 崎 敏 夫
〃	〃	富 田 兼 康	〃	58	竹 内 利 美
〃	〃	加 藤 陸奥雄	〃	〃	海 藤 勇
〃	〃	森 嘉兵衛	〃	59	高 橋 富 雄
〃	37	後 藤 秀 弘	〃	〃	弘前大学日本海中部地震研究会
〃	〃	佐 藤 利三郎	〃	60	芹 澤 長 介
〃	〃	庄 司 吉之助	〃	〃	西 澤 潤 一
〃	38	木 村 甚 弥	〃	61	後 藤 由 夫
〃	〃	山 本 美喜雄	〃	〃	本 間 敏 夫
〃	〃	渡 辺 慈 朗	〃	62	加 藤 治 郎
〃	〃	佐々木 栄 一	〃	〃	佐 藤 寿 雄
〃	〃	伊 藤 定 雄	〃	63	伊豆沼管理協議会
〃	39	秋田県農村医学会	〃	〃	瀧 島 任
〃	40	藤 岡 一 男	〃	平元	岩 崎 俊 一
〃	〃	下 平 三 郎	〃	〃	新 野 直 吉
〃	〃	若 林 彊	〃	2	野 口 正 一
〃	41	酒 井 軍治郎	〃	〃	加美山 茂 利
〃	〃	宮城県対がん協会	〃	3	増 本 健
〃	42	池 田 徹 郎	〃	4	稲 場 文 男
〃	〃	毛 利 総七郎	〃	〃	仙台赤十字病院周産期センター
〃	43	秋田大学八郎潟研究委員会	〃	〃	新生児未熟児集中治療部門
〃	〃	奥 津 春 生	〃	5	村 上 孝 一
〃	44	九 嶋 勝 司	〃	6	千 葉 二 郎
〃	〃	野 田 起一郎	〃	7	和 泉 修
〃	〃	東北地方建設局岩手工事事務所	〃	〃	吉 田 豊
〃	45	和 田 正 美	〃	〃	斎 藤 博
〃	〃	富 岡 重 憲	〃	〃	紫 桃 正 隆
〃	47	杉 山 尚	〃	8	佐 藤 喜代治
〃	〃	平 山 諦	〃	〃	藤 原 哲 郎
〃	〃	西 山 正 治	〃	9	曾 根 敏 夫

本団役員、評議員 2024年
1月1日現在

理事長 一力 雅彦 株式会社河北新報社代表取締役社長

常務理事 今野 俊宏 株式会社河北新報社常務取締役

理事 大野 英男 東北大学総長

同 藤本 章 仙台市副市長

同 里見 進 独立行政法人日本学術振興会
顧問

同 三林 宏幸 東日本旅客鉄道株式会社
執行役員東北本部長

同 齋藤 幹治 一般社団法人東北経済連合会
専務理事

同 吉田 利弘 公益社団法人宮城県芸術協会理事長

同 本郷 浩尚 東北放送株式会社常務取締役

監事 鈴木 隆 株式会社仙台銀行取締役頭取

同 石川 雄康 株式会社河北新報社取締役

評議員 遠藤 信哉 公益財団法人みやぎ産業振興機構
理事長

同 平川 新 東北大学名誉教授

同 佐々木 裕司 東北電力株式会社常務執行役員

同 阿部 正直 公益財団法人宮城県文化振興財団
理事長

同 濱田 直嗣 文化史家

同 中塚 正志 公益財団法人仙台市スポーツ振興
事業団理事長

同 今井 敦 公益財団法人東北放送文化事業団
事務局長

同 練生川 雅志 株式会社河北新報社専務取締役